

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 兵庫県立三木北高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒673-0521
兵庫県三木市志染町青山6丁目25番地

E-mail mikikita-hs-ad@hyogo-c.ed.jp
Website http://www.hyogo-c.ed.jp/~mikikita-hs/

幼児児童生徒数 男子 290名 女子 256名 合計 546名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「人と環境の三木北」をキャッチフレーズとし、「地域の環境活動の拠点」になることを目標としている。

「環境」を考えるにあたり、「環境教育 (SDGs・13)」、「国際理解教育 (SDGs・17)」、「地域連携教育 (SDGs・11)」という3つの柱を立て、それらに関連付けて校内でのすべての教育活動を実施するとともに、地域と連携して地域づくりの取り組みや環境保護・保全に係るボランティア活動等への積極的な参加を推進している。

ESDを学校教育活動の中心に位置付け、ESDの実践を通して、自ら考え行動する力とコミュニケーション能力の育成を目標としている。

具体的には、①グリーンカーテンプロジェクト (SDGs・13)、②エコキャップ回収活動 (SDGs・12)、③(株)ユニクロ“届けよう、服のチカラ”プロジェクト (SDGs・3) などを行った。

① グリーンカーテンプロジェクト

地域のグリーンカーテン化を進めることを目的として、校舎南側の壁面にゴーヤ、アサガオ、風船かずらを植栽した。今年度から環境研究部だけではなく、特色選抜入学生徒（24名）も参加し、植栽・水やり・種の収穫と配布を行った。収穫したゴーヤは保護者や地域の方々に配布した。また、アサガオと風船かずらの種は地域の緑化のために袋詰めにして地域の文化祭などで配布した。

② エコキャップ回収活動

各HR教室と生徒昇降口にキャップ回収機を設置している。月1回のペースで生徒が集約し、回収業者に送付している。今年度末で累計263,997個を回収することができた。また、校門横、近隣の幼稚園、こども園にも回収機を設置し、地域の方々にも協力を仰いで回収活動を行っている。

③ “届けよう、服のチカラ” プロジェクト

(株)ユニクロと協力して、子供服をリサイクルし、難民キャンプに贈る活動を行った。単なる「服のリサイクル活動」ではなく、ユニクロ社員の出張授業、校内や地域への呼びかけ、本校生徒が地域の幼稚園・こども園で出前授業を行うなど、世界で起こっている様々な問題を知り、主体性や幅広い視野を身に付けるための活動となっている。



①の写真
校舎壁面のゴーヤの様子



②の写真
近隣のこども園に回収機
を寄贈したときの様子



③の写真（本校生徒による出前授業の様子と生徒玄関に置いた発送準備で箱詰めされた服）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ ユネスコスクール公式ウェブサイト
- ・ 国連開発計画ホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・教育課程には位置付けていない。
- ・本校教育活動の大きな柱である「環境」と「ユネスコスクール（ESD）」を関連付けている。
- ・ユネスコスクール認証前には一部の部活動や教員による活動が主であったが、継続と発展という観点においては、不十分であったこともあり、学校全体で取り組む事ができる組織づくりを行うと同時に活動内容の精選と役割分担を明確にした。
- ・ユネスコスクールカレンダーを作成し、年間の取り組みや行事を生徒・教職員に知らせ、共有している。
- ・活動ごとに反省点や改善点を話し合う意見交換会を行い、次年度の活動に役立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・特色教育担当教員を4名（主任1名・各学年3名）配置し、学校全体で取り組む体制を整えている。
- ・「ユネスコスクールカレンダー」を作成し、年度当初の会議で全教員への配布と各HRに掲示を行い、年間の活動予定を共有している。
- ・各学年で活動することと学校全体で取り組むことを明確にし、学年担当の教職員がすべての活動を経験できる体制を作っている。
- ・「ユネスコスクール掲示板」を階段壁面に設置し、生徒・教職員が情報を随時得ることができるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・今年度は特色教育担当部署の組織を見直した。学校内部では評価をすることができなかった。次年度以降、ESDに特化した評価項目の作成を行い、教職員に対する評価を行う予定である。
- ・学校評議員による学校関係者評価を行ったが、評価項目が以前から本校で取り組んでいる活動に限定されているため、評価のあり方を変更する必要があると思われる。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

環境研究部の活躍により、本校の環境に対する取り組みが校内外で認識されるようになり、様々な団体や研究会等からの参加依頼が増加した。今年度は「ひょうご環境担い手サミット」や「県高等学校特色づくり発表会」などに参加することができた。ポスターセッションで参加者に直接報告をする機会を得て、本校の活動を発信し、認識してもらうだけでなく、生徒のコミュニケーション能力が向上したと思われる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・三木市役所内に設置されている「三木市ユネスコ協会」と「書き損じはがき」の回収活動などで連携を行っている。
- ・「花あかりの会」とカタクリの花の植栽・保存活動で連携している。
- ・地域の公民館・老人会・まちづくり協議会などと連携し、地域で行われる夏祭りや文化祭などに積極的に参加している。本校の活動を伝えるとともに、ボランティアを行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流は行っていない。将来的にはユネスコスクールの県内高等学校と交流を行い、各校で取り組んでいる活動内容の発表会や情報共有などを実施したいと考えている。

今年度はユネスコスクールではない近隣の小学校の児童に対して、環境啓発活動を行った。児童の反応がよく、本校の活動は小学校との連携が適しているように感じたこともあり、県内の環境をテーマにした小学校ユネスコスクールとの連携を模索している。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

「環境の三木北高校」としての認知度が向上し、入学生はもちろんのこと、近隣住民の方々も本校の環境活動に興味や関心を持っていることが感じられる。具体的にはエコキャップ回収や子供服のリサイクルにかなりの数の協力があり、新聞掲載記事を見た遠方の方が郵送されるなど、予想を超えることが起こった。次年度に向けて協力の輪を広げられる可能性を感じる年度となった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校で行われる学校行事や特色活動をESD・SDGsと関連付ける

4月：新入生対象ユネスコス쿨説明会
新入生対象環境意識調査

5月：グリーンカーテン植栽（ゴーヤ・アサガオ・風船かずら）
→SDGsの13 「気候変動に具体的な対策を」

6月：“届けよう、服のチカラ”プロジェクト出前授業
→SDGsの3 「すべての人に健康と福祉を」

7月：全校環境保全活動

8月：地域の夏祭りでのボランティア
インターンシップ
→SDGsの8 「働きがいも経済成長も」

9月：豪州ドローウィンセカンダリーカレッジ生徒来校交流

10月：“届けよう、服のチカラ”プロジェクト回収活動

11月：LGBT講演会
→SDGsの5 「ジェンダー平等を実現しよう」

12月：全校環境保全活動

1月：鬼追い式ボランティア
東日本大震災復興支援凧揚げに参加
書き損じはがき回収活動

3月：宮城県志津川高校野球部との交流

通年：エコキャップ回収活動
→SDGsの12 「つくる責任 つかう責任」
太陽光発電
→SDGsの7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」
地域自治会との駅前清掃活動
→SDGsの11 「住み続けられるまちづくりを」